

書評

明解 スポーツ理学療法 図と動画で学ぶ基礎と実践

堀部秀二 (監修)
小柳磨毅, 境 隆弘, 三谷保弘, 松尾高行 (編集)

B5判・272頁
定価: 6,380円(本体5,800円+税10%)
三輪書店刊, 2021年



[評者] 福井 勉 文京学院大学

編集代表が序文に書かれているように、理学療法士になりたいという志望動機には「スポーツ」に何らかの形でかかわりたいと考える高校生が多い。この傾向は長い間続いており、古くは自分がスポーツで怪我をしたという動機であったが、最近では怪我の後で担当してくれた理学療法士に憧れたことが動機になっているように若干変化してきている。

しかしながら、スポーツ理学療法を設定している教育機関において、教育内容が網羅され、理解しやすさへの工夫がされている書籍はあまりなかった。その意味では本書は教科書として適切な内容の網羅と理解しやすい特徴がさまざまな側面で構築されている。

この分野の学修を屋根造りになぞらせ、瓦のようにひとつずつしっかり積み上げていく方法とペンキを塗るように何度も繰り返す方法に例えてみる。瓦がしっかりと設置されるためには、そのいくつかのポイントが明確である必要があるが、本書はタイトルにもある

ように、かなり明解に書かれている。さらにフルカラーで読者に理解を容易にしようとする工夫が随所に現れている。さまざまなテストに解像度の高い写真が用いられており、興味も惹かれさらにWeb動画の充実ぶりは目を見張るものがある。このように読者を強く意識した書き方は読者に自習の意欲も促し、いわば、ペンキ塗りの効果も同時にあるように感じる。

本書の総論は「スポーツ医学と理学療法」というタイトルで、本分野の歴史から始まり、近年の重要な話題である「予防」にも重点が置かれている。また「理学療法の原則」では、治療の根拠となる組織治癒、評価や理学療法の原則から物理療法機器と補装具というように全体を概観できる構成になっている。各論である「スポーツ損傷に対する理学療法の実践」では、代表的疾患がポイントを絞って記述されている。それぞれの章立ても、「病態・受傷機転」、「診断・治療」、「理学療法アプローチ」と統一されている。分担執筆でありがちな不統一性が本

書にはほとんどみられない。おそらく企画構成の段階で統一性や親しみやすさについて論議された結果ではないかと思う。

ターゲットとした読者に対して、フルカラーとWeb動画によって読むことに対する動機づけが付加されていることも感じられた。写真や図が相当数あり、従来の書籍のどれよりも多いのではないかと感じた。

また本書はページの区切りと理解の切り替えができるような工夫もされているので、やはり読みやすく感じる。ページによって白紙の領域を変えてあり、ページごとの該当項目のポイントが絞られていることも奏功した理由だと考えられる。さらにスポーツ現場の写真もあり、読者は興味をそそられる。

著者陣はほぼオール関西布陣であるにもかかわらず、お好み焼きのようにこってりしておらず非常に洗練されており、初学者は本書1冊だけを読むだけでも、同分野の中級者になれると感じられる優れた書籍である。